

# 園だより



駿河台大学第一幼稚園

3月号



3月。令和4年度の最終月。年中組、年少組さんは終業式まで、年長組さんは修了式まで、あと少しとなりました。子どもなりに別れやこれからの変化を感じていると思います。だからこそ、出会っている今の一瞬一瞬を大切にしたいものです。

今年の年長さんは、緊急事態宣言で入園式を6月に行い、3年間マスク生活を余儀なくされた子どもたちでした。この一年、様々な活動や行事をできる形を探し、短時間でも子どもたちの大切な経験となるように、毎回新たな実施方法を考えて進めてきましたが、振り返ると無事に進めてこられたのは、保護者のみな様のご協力があった結果です。心から感謝いたします。

一人ひとり違う個性をもつ子ども同士と、担任含め職員たちが織り成す幼稚園での暮らしが、幼児期の大切な日々の中で豊かな心や身体の育ちに少しずつつながってきたと思っています。

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構のPTAしんぶん(705号)に子どもの脳の発達には3つの段階、認知革命があるという記事がありました。

子どもの脳は生後10ヶ月あたりからイメージが誕生し、3歳頃までに記憶を蓄積する「海馬」と快・不快の感情を喚起する「扁桃体」のネットワークが形成され体験の記憶が蓄積されるようになる。これを第1次とし、5歳半頃から一年生にかけて情報の処理を行うために脳のワーキングメモリーが働き始め、プランする力とともに自分の行動を判断し反省する「メタ認知能力」が働く第2次が起こり、そして3～4年生で第3次を迎えるそうです。

このことを考えると、幼児期に家庭から一歩自立して、幼稚園で遊びや生活を通して他者とかかわり、快感情と共に不快なこともどう向き合い乗り越えていくかなど目に見えない力を蓄えてきたことが大切です。今後、この園での体験や経験を活かし毎日を「大丈夫、今日も元気に」と気持ちを開いて過ごしていけるように願います。



園庭の梅